平成３０年８月１日

　　　　№３

長岡市教育委員会

子ども未来部

青少年育成課

＜児童館・児童クラブ＞

～児童厚生員全体研修会（６月２８日（木））報告～　参加者：109名　会場：さいわいプラザ

○活動計画を立てよう（小林Co）

　「発達段階にふさわしい遊びと生活環境をつくる」「企画段階から子どもの意見を反映させる機会を

設け、子どもが主体的に運営に関われるようにする」ことが放課後児童クラブ運営指針解説書に記

されています。今年度予定している事業から１つ選び、実践計画書を立ててみましょう。そうするこ

とで、子どもの動きを予想し、グループ分けや役割分担・支援の見通しがもてます。

計画を立て、活動をしたあと、評価をしましょう。きっと、来年の活動に活きるはずです。そうや

って、自信をもってできる活動を、１年に１つずつ増やしていきましょう。

○グループワーク　「児童厚生員をしていて　うれしかったこと・感動したこと」

　持ち寄ったレポートには、心温まる記述がたくさんありました。抜粋したものをお知らせします。

　・「ただいま」と言って学校から来るとき

・一輪車などの技ができた姿を見たとき

　・成長してから、顔を見せてくれたとき

　・「児童厚生員になりたい」と言ってくれたとき

　・児童館が楽しい、行事が楽しかったと言ってくれたとき

　・子どもが、絵や手紙などをくれたとき

　・手がかかる子どもが、「ありがとう」と言ってくれたとき

　・子どもたちが、どんどん遊びを広げていったとき

　・夢中で遊んでいる姿を見たとき

　・そっと悩みを打ち明けてくれたとき

　・迎えに来た母に笑顔が増えたり、会話ができたりしたとき

　・上学年の子が下学年の子を、なだめたり励ましたりしていたとき

　・学年の枠や男女の枠を超えて遊んでいるとき

　・後かたづけや掃除を手伝ってくれたとき

　・成長を感じて頼もしく思えたとき（特に1年間が終わるとき）

～グループワーク後の感想～

　・「うれしかったこと・感動したこと」は、いいなあと思った。

　・日頃、良くないところしか見えなくなっていたと反省した。

　・他の児童厚生員の話を聞いて、そんなことがあったなあと思いだした。

　・書くことは何もないと思ったけれど、そういえば…と、改めて気付くことができた。

　・感動のエピソードがたくさん聞け、温かい、幸せな気持ちで帰れます。

　・日々の出来事の中に、喜びがあるのだなあと再確認できた。

肯定的な意見交換をしたことで、柔和な笑顔がたくさんあり、満足感や充実感につながったようです。

＜放課後子ども教室＞

○平成３０年度の「長岡市放課後子ども教室（概要版）」ができました

放課後子ども教室・放課後児童クラブ・市内の各小学校にお届けしますので、参考になさってください。各教室の活動予定を見ると、興味・関心のわく内容があります。話を聞いたり見学したりすると、参考になることもありそうです。お忙しいとは思いますが、時間を少しやりくりして、フットワークよく情報交換をしてみませんか？

○夏休みが始まりました

長期の休みだからこその楽しい「特別教室」があります。

例えば、上組教室の「摂田屋めぐり」…昔の上組小学校のルーツの散策

山古志教室の「浴衣の着付け」…着付けの後は、盆踊りの練習　　などです。

新町教室の「仁和賀」は、７月２７日（金）の新潟日報に活動が紹介されていました。

計画・準備・リハーサル・下見など、実際の教室開催までにかなりの打合せが必要かと思います。ですが、子どもたちが、その地域らしい工夫を凝らした教室に参加できることは、大変ありがたいことです。

＜放課後子ども総合プラン＞

～第１回運営委員会（７月２５日（水））報告～　　参加者：１８名　　会場：さいわいプラザ

○放課後子ども総合プランの２つの意義を両輪に

・小1の壁を打破するため、共働き家庭の児童にとって安心・安全な居場所を確保

・次代を担う人材の育成のため、全ての児童が多様な体験・活動を行うことができる環境を整備

○「地域連携コーディネーターの役割を学ぶ」の講師のメッセージ紹介

・地域の未来を明るくしよう。

・学校と地域はパートナー（対等な関係）。学校と教育責任を分かち合える社会を耕そう。

○グループワーク「放課後子ども総合プランと放課後子ども教室の関わり」の概要

　　地域・保護者の意識を高めたい、学校の理解を得たい、という大きな課題を受けて、グループワー

クをしました。どのグループからも、提案や解決策につながりそうな前向きなコメントがたくさんあ

りました。各地域で、夢や希望、思いを語り合う機会を設けていただければありがたいです。

Aグループ…子どもの中でリーダーを育てていきたい。学校と課題を共有し、プランを立ててやっていきたい。クラブと教室の関わりを深めていきたい。「楽しかった」「うれしかった」という自己有用感が得られる教室運営をしていきたい。途中退会がみられるので子どもの興味・関心のある教室を開設していきたい。

Bグループ…地域を担う「人」を育てたい。支援の必要な子どもも一緒に活動をしているので「相手を思いやれる子ども」を育てたい。学校ではできないところを地域で補いたい。

　　　　　地域の一般利用の人の理解が得られない、安心・安全が精一杯というところがあるので、何ができるか改善策を考えていきたい。

Cグループ…子どもの人数、施設・設備、人材、それぞれの地域で様々である。また、プログラムを組んだ最初のエネルギーが次第に失われていくこともある。参加人数も減る傾向にある。学校との連携も管理職が変わると変化してしまう。携わっている者が動きやすいように、各教室で工夫をしていく必要がある。